

## 報 告

小中一貫教育懇話会での意見を以下のようにとりまとめました。

第1回から第3回では、大きく3つの意見がありました。1つ目は、小中一貫教育に関する情報不足で、不安があるので、講演会・説明会をもっと欲しい。2つ目は、この度の小中一貫教育についての提案は、手続き的に問題があり、撤回の上、あらためて北中学校区の教育を考えていく取組をして欲しい。3つ目は、学校と地域で北中学校区の教育を考えていきたい。小中一貫教育はそれを開いていく可能性を持つので積極的に考えていきたい、とするものでした。

その後、この懇話会の1つ目の意見にまず沿って、話し合うにしても情報不足では問題があるということで、講演会、説明会、似た規模・立地などをもつ小中一貫校の視察に出かけるということになり、小中一貫教育の理解、生駒市の方針についての理解などの時間が取られました。

続いて、懇話会の第4回から第6回では、小中一貫教育についての理解が広がりを持ち、また、生駒市の方針についても確認がなされ、より前向きに小中一貫教育を考えようとする話し合いが持たれました。

そして保護者、地域の声を拾う活動として、アンケートや対面による話し合いの時間、先進的な取組をしている地域の声を聞きに出かけるなどの情報収集がなされ、その結果についても懇話会で話されました。

さらに、生駒北中学校区で小中一貫教育を行うとしたら、何を指すのかについても懇話会内で明確にする話し合いも持たれ、そのイメージも作成されていくに至りました。

なお8回の話し合いを通して、出された意見は概ね次の通りでした。

- 1) 北小、北中に望むこととして、学力のさらなる向上、小中教員による組織的な指導体制の構築、部活動の充実等の課題改善をお願いしたい。また小中一貫校のメリットを生かして、周辺の地域から児童生徒が転入してくるようにして欲しいという意見が出されました。
- 2) 小中一貫教育で、充実した設備、特色ある教育課程を備えた魅力ある学校をつくり、地域や保護者、学校が一体となって地域の活性化を図りたいという意見が多く出されました。
- 3) 1学年1学級の状況の中、小中一貫教育を取り入れ小中教員の協働による学習指導や生徒指導等を生かし学校の教育力の維持向上を図りたい。その上で、実施については教員の不安や負担を考慮して欲しい、特に立ち上げ期においては、適

切な人員の配置やバックアップ体制を市として配慮して欲しいという意見が出されました。

4) 実施に当たっては、中学校から入ってくる生徒の不利にならないよう十分配慮すべきである、という意見がありました。

5) 少数ではあるが、小中一貫教育をしなくても、これまでの取組で十分可能でありむしろ教員の人数を増やすべきという意見も引き続きありました。

6) 保護者へのアンケートなどにおいて、とりわけ最初の頃、少数ではありますが反対意見があり、そして不安を表明する声などが多く見られました。しかし、講演会や説明会、対面によって直接声を聞く活動を通じて、次第に、まだ不安な部分も残るが、前を向いてみんなで作っていかうとする動きになってきました。より具体的な内容が見えることへ向かって欲しいという報告もなされました。

以上のような意見から見られるように、最終的に大きな意見の流れとしては、小中一貫教育を進めることで、生駒北小学校、北中学校の教育をみんなで考えていかうとする方向性が意見の大半を占め、むしろ、より具体的にどのように進めていくかに時間をかけたいという意見が多く出されるに至りました。